<table>
<tr><td colspan="5">会　　議　　記　　録</td></tr>
<tr><td>会 議 の 名 称</td><td colspan="3">公共交通対策特別委員会</td><td>会議場所　第3委員会室
担当職員　阿久根由美子</td></tr>
<tr><td>日 時</td><td colspan="2">平成26年12月4日(木曜日)</td><td>開 議　　午前 10 時 00 分
閉 議　　午前 10 時 40 分</td></tr>
<tr><td>出席委員</td><td colspan="4">◎石野　○立花　井上　田中　　日高　(吉田委員欠席)</td></tr>
<tr><td>執行機関出席者</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>傍聴者</td><td>市民－名</td><td>報道関係者　－名</td><td colspan="2">議員　－名(　　)</td></tr>
</table>

会　議　の　概　要

１０：００

１　開議

〔石野委員長　開議〕

〔事務局　日程説明〕

２　案件

○みよし市視察報告について

＜石野委員長＞

意見をまとめて報告したい。

＜日高委員＞

本市にはそぐわない気がした。

＜井上委員＞

本市とは状況が違うので同じものを導入しても合わない。ロケーションシステムは利用者にとって便利であり、本市も導入を検討するべきである。

＜田中委員＞

みよし市は人口密集地域が多く、移動権の確保のため様々な検討をされていた。本市でも、高齢者にとって使いやすいものを検討するべきである。みよし市の事例をそのまま導入できなくても仕組みは参考にするべきである。

＜立花副委員長＞

みよし市はバス路線までを乗合いタクシーでつないでいた。本市の畑野地域や東西別院地域においてふるさとバスまでをつなぐデマンド交通で良いものか。それで市

民ニーズに対応できるのか。利便性の向上になるのか。利用は進まないのではないかと思う。

みよし市、南丹市、玉城町も視察した。それぞれニーズに合った方法で導入されているので成功しているのだと思う。なかでも玉城町は利用がとても多く、2千万円の費用で効率よく運営されており、理想的である。京都府下ではあやバスが成功している。

本市は地域に見合った利用の進む運行をする必要がある。山間部は２～３日に一度でもよいから市街地に行けるようにするべきで、暮らしに役立つものでなければならない。人口密集地域にはコミュニティバスなどの運行が必要である。アンケート調査をもっと短いスパンで実施し、アンケートに沿って、社会の動向やニーズに合わせて変えていくべきである。

＜石野委員長＞

みよし市の市域は狭く、同じものを本市に導入することはできない。バスロケーションシステムの導入など利便性の向上に努めてほしい。

＜井上委員＞

市民１人当たりの負担額とは何か。

＜事務局＞

公共交通に関わる費用を人口で割った数字である。

＜井上委員＞

本市の場合はどうか。

＜事務局＞

１人の負担額は計算しないと判らない。平成２４年度市の負担額は、ふるさとバスが3千8百万円、コミュニティバスが1千3百万円である。

＜井上委員＞

本市の山間部での移動は深刻化している。空き家も増えている。費用負担があってもデマンド交通等を検討するべきである。

＜日高委員＞

先日豊岡市でチクタク（地域主体交通）を政務調査した。豊岡市の市域は本市の３倍である。１市５町が合併しており、旧町単位で有償ボランティアにより運行されている。車両は市が提供している。ボランティアは30人で、1日3,000円、パソコ

ン、タブレット端末を持ち、予約状況を確認し運行している。市が講習会を開催している。運賃は100円で利用が多い。運行管理費用は1箇所年間100万である。

本市は、畑野町から市街地に向かうのに運動公園で乗り換えている。東別院町なら学園大学で乗り換えている。直接目的地に行けるようにデマンド交通を検討するべきである。それぞれの地域のなかで考えていけばよい。

＜石野委員長＞

以上の意見をまとめ報告とする。報告書の文面は正副委員長に一任願う。

―全員了―

〇委員長報告について

〔石野委員長　別紙朗読〕―全員了―

３　その他

＜事務局＞

政策推進室から篠町の公共交通について地元協議に入っているという報告があった。

広報広聴会議から議会だよりの原稿依頼があった。取扱いを協議願う。

＜井上委員＞

篠町の公共交通の内容は。

＜事務局＞

担当課に問合わせ願う。

＜石野委員長＞

議会だよりの原稿は正副委員長に一任願う。

―　全員了　―

＜石野委員長＞

最後の委員会である。委員会は提言等を行い、効果があった。各委員の協力に感謝する。

＜立花副委員長＞

20年近く交通関係の特別委員会に入っていた。公共交通が充実してきた。以前の委

員会は理事者の説明だけであったが、近年は視察、提言を行い、実りの多い委員会であった。事務局の尽力が支えになった。委員の協力と事務局の支援に感謝している。

散会　～１０：４０